

# 研究報告書

はじめに

- I わり算につまずいている子どもをどのように支援するか  
発達理解研究グループ
- II Enjoy English  
－小中一貫教育をとおして－  
英語教育研究グループ
- III 理科はやっぱり観察・実験！  
－わかりやすい授業づくり－  
理科教育研究グループ
- IV 組織力を高める学校体制づくり  
－組織的な学校間連携・首席と学校組織マネジメント－  
学校組織マネジメント研究グループ
- V “一食作れる吹田っ子”をめざして  
－家庭科での実践－  
食育研究グループ
- VI 各学校の道德教育の推進をはかる！  
－道德の時間を充実させるために－  
道德教育研究グループ
- VII 不登校児童・生徒支援事業について

平成26年3月  
(2014年)

吹田市立教育センター

## はじめに

グローバル化や高度情報化社会の到来により教育をめぐる状況が大きく変化する中、子どもたちの学習意欲の向上を図りながら「確かな学力」を確立するとともに、「豊かな心」や「健やかな体」を育み、それらを基盤とした「生きる力」の育成を図ることが教育に求められています。また、これまで教育現場を支えてこられた多くの先生方が退職され、新たに多くの新規採用の先生方を迎える時代において、本市が培ってきた教育を大切にしながら、子どもたちがしっかりと将来を見つめ21世紀を生き抜く力を育み、自立して力強く生きる人づくりや自律して社会を支える人づくりが学校に求められています。人づくりに、とりわけ重要な役割を担うのが教職員です。このような時代だからこそ、今年度も本センターにおきましては、教職員一人ひとりの資質・能力の向上をめざしたキャリアステージに応じた研修や専門性を高める研修を実施してまいりました。

中でも、本市が取組んできた教育を継承し、さらに充実させていくため、研究グループでは学校・園の教職員のみなさまに研究員を委嘱し、スーパーバイザーの先生方のご指導のもとに、調査・研究を進めてまいりました。今年度は、昨年度に引き続き、割り算にまつまづいている子どもたちへの支援方法を研究する「発達理解」、小中一貫を基盤として英語指導方法を研究する「英語教育」、わかりやすい授業づくりを目指した「理科教育」、組織的な学校間連携がもたらす教育的効果を研究する「学校組織マネジメント」、一食作れる吹田っ子をテーマとした「食育」、各校の道德教育の推進と充実を目的とする「道德教育」の6つの研究グループにおいて、スーパーバイザーの先生のご助言を得ながら、研究員の方々に熱心に研究に取り組んでいただき、ここに、平成25年度(2013年度)の紀要108号「研究報告書」として、それぞれの成果をまとめることができました。これらの研究成果を各校・園での教育活動や実践の参考としてご活用いただけたら幸いです。

今後とも、教育センターといたしまして、子どもたちが笑顔を絶やさず、瞳をきらきらと輝かせた学校生活を送れるよう、就学前教育から小学校・中学校の11年間の連続した学びを通した「総合的人間力」の育成に向け、各校・園への支援の充実を図るとともに、さまざまな教育課題についての調査・研究等の推進に取り組む、その成果を発信してまいります。

最後になりましたが、スーパーバイザーの先生方をはじめ、ご理解とご協力をいただいた学校・園の関係者のみなさま、そして、研究員として委嘱させていただいた教職員のみなさまに、厚くお礼を申し上げます。

平成26年(2014年)3月

吹田市立教育センター  
所長 笠井一司

—表紙題字—

神山 成 先生（元 吹田市立山田第三小学校 校長）

紀要 108 号  
平成 25 年度 研究報告書  
(2013 年度)

印刷発行 平成 26 年 3 月  
(2014 年)

発行人 所長 笠井 一司

発行所 吹田市立教育センター

吹田市出口町 2 - 1

電話 (06)6388-1455

F A X (06)6337-5412

E-Mail:s-educ@suita.ed.jp